

橋本 友幸 病院長

トピックス・レポート

TOPICS REPORT

「北海道がん診療連携指定病院」に指定 地域のがん医療の推進に更なる貢献を

がん患者を支援するための専門スタッフの育成にも注力

函館中央病院病院長 **橋本 友幸** 氏



北海道がん診療連携指定病院の指定書を手にする橋本友幸病院長。

函 館中央病院（函館市本町）は平成26年4月1日付で、道から「北海道がん診療連携指定病院」に指定された。

現在、道内では一つの「都道府県がん診療連携拠点病

院」と、20の「地域がん診療連携拠点病院」が厚生労働省の指定を受けているが、道では、どこに住んでいる人でも、標準的ながん医療サービスが平等に受けられることができるように、平成24

年4月「北海道がん対策推進条例」を施行するとともに、独自の要件により指定する「北海道がん診療連携指定病院」を設けることになった。

道南地区では「がん診療

連携拠点病院」として3病院（市立函館病院、函館五稜郭病院、国立病院機構函館病院）が指定されている。北海道がん診療連携指定病院はそれに準ずる中核病院と位置づけられているが、橋本友幸病院長は「これまでのがん診療の実績を活かしながら、がん患者へのサポートを充実させていく」と話す。

同病院は開院以来、一貫して急性期医療を中心として地域に根ざした医療へ取り組んできた。年間の総手術件数は約4500件で、胃がんや大腸がん、乳がん、子宮頸がん、前立腺がんなど、がん手術は600件以上に達している。また、抗がん剤の化学療法は通院の外來化学療法を中心に年間3000件に達するなど、がん診療の実績は道南の病院でも上位の成績を誇っている。

「知識や技術などの専門的な分野に特化した認定看護師資格にも積極的に取り組んできましたが、緩和ケアを支援するための緩和ケア認定看護師についても資

格を取得させるなど、がん患者を支援するための専門スタッフの育成にも力を入れていきます」。

老朽化した病棟の建て替え放射線治療施設も設置検討
同病院では今後数年以内に、老朽化した病棟の建て替えを検討しているが、橋本病院長は「数年後の建て替え時には、放射線治療施設の設置も検討している」と語る。

現在は放射線治療が必要な場合には、がん診療連携拠点病院の市内3病院と連携しているが、総合的ながん診療を目指している同病院にとって放射線治療は欠かせない。「今回の北海道がん診療連携指定病院の指定は地域がん診療連携拠点病院へのファーストステップと位置づけています。放射線治療を含んだがん治療体制の構築により、道南地区のがん診療の拠点として地域医療へ貢献していきま